

Noto PLUS

1



広報のと 第179号

令和2年1月1日発行

発行・能登町 編集・総務課
〒927-0492
石川県鳳珠郡能登町字中出津下字50番地1

☎：0768-92-1000
能登町URL：https://www.town.noto.lg.jp
Eメール：info@town.noto.lg.jp



その十

のつなぐ

歴史と文化のトビラ

久田の和紙



和紙づくりに適している環境条件の一つとして、気温が低いといことが挙げられます。それは、原料となるコウゾと一緒に水へ溶かされ、美しい紙に仕上げられる「ネリ」と呼ばれる材料の効果もひとつも発揮されるからです。まさに能登の冬は、和紙づくりに適した環境なのです。

紙は今から約2200年前の中国大陸で生まれたといわれ、日本へは1400年ほど前に製紙の技術が伝えられたそうです。
能登町でも古くから紙づくりがおこなわれていたようで、久田は江戸時代から紙の生産地として知られていました。明暦元年（1655）に

現在の輪島市に住んでいた人物が、久田の次郎九郎から紙を購入したという記録が最古です。大正時代に出版された『鳳至郡誌』によると、久田の紙はコウゾのみを原料とし、紙質は極めて強く、帳簿用として能登一円に売られていたとされます。このように重宝されていた久田の紙ですが、明治時代以降、洋紙の普及により生産が減少し、ついには途絶えてしまいました。

昭和63年、当時の小間生小学校長坂井典一氏が、近隣に自生しているコウゾの活用と、校下の久田で紙が作られていたことを児童に伝えるため、授業の一環として和紙づくりを始めました。小学校の閉校が決まると地元有志によって生産を継承する団体「紙工房みわ会」が立ち上げられ、現在に引き継がれています。中学生を対象とした卒業証書づくり、各種紙工芸品づくりなど、継承と普及に向けた活動を展開しています。

問町教育委員会事務局 ☎（62） 8537

田の神様を迎えに来た主人役の吉村さん



あえのこと

12月5日、国重地区の吉村家で田の神様を家に迎える料理などでもてなす「あえのこと」が行われました。国重では平成20年に保存会を発足し、地区住民が協力して神事を継承しています。主人役の吉村安弘さんは、目が不自由とされる田の神様に言葉をかけながら家に招き入れ、今年1年の豊穣に感謝しました。
田の神様は、種初の入った米俵の中で一冬を越し、翌年2月9日に再び田んぼへ戻ります。



ハチメや小豆飯などでもてなす



「広報のと」1月号の印刷費は一部当たり35円です。

この印刷物は、ESPAのゴールドプラス基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています。
ESPA：環境保護印刷推進協議会
環境保護印刷
FNN No. P13-0179
環境印刷・クリオマーク認証